

ブロック名：腫瘍(ブロック①)

月日	曜日	時限	授業タイトル	講義担当者		授業終了後に説明できる事項	事前学習
				氏名	所属		
9.10	火	I	がんの疫学・発生とゲノム	砂川 優	臨床腫瘍学	1. 罹患率、死亡率の定義を述べ、頻度の高いがんについて例示できる。 2. 発がんの機序を段階に分けながら概説できる。 3. がんゲノム解析と臨床応用について説明できる。	WebClassにアップされた講義資料を予習する
"	"	II	腫瘍ウイルス	三好 洋	微生物学	1. 腫瘍ウイルスを列挙できる。 2. ウイルスによる腫瘍形成機構と癌遺伝子・癌抑制遺伝子の関係について説明できる。 3. ウイルス遺伝子産物の細胞周期やシグナル伝達系との関係を説明できる。	"
"	"	III	腫瘍免疫	中田 なぎさ	免疫学・病態動物学	1. 腫瘍抗原の種類とその例を説明できる。 2. 腫瘍免疫に働く個々の細胞・分子の機能を説明できる。 3. 腫瘍のエスケープ機構およびその機序を説明できる。	"
9.11	水	I	遺伝性腫瘍・家族性腫瘍	右田 王介	小児科	1. 家族性（遺伝性）がんの種類、発生機序、遺伝子診断について概説できる。 2. 「がん遺伝子」及び「がん抑制遺伝子」の代表例を列挙し役割を説明できる。	"
"	"	II	腫瘍病理診断	小池 淳樹	診断病理	1. がんの診断に有用なタンパク・腫瘍マーカーを列挙できる。 2. 免疫組織化学染色の原理・適応を概説し、頻度の高い代表的ながんの所見を説明できる。 3. 組織診と分子病理診断の方法と適応を概説し、がんの代表的な所見を説明できる。	"
"	"	III	がんに対する放射線療法	小林 真梨子	放射線医学	1. 放射線と放射能の種類、性質と単位を説明できる。 2. 放射線治療に用いる機器について説明できる。 3. 放射線治療における種々の照射法について説明できる。	"
9.12	木	I	がん薬物療法	中島 貴子	臨床腫瘍学	1. がん薬物療法の理論について説明できる。 2. 周期期と緩和的な化学療法の意義について説明できる。 3. 分子標的薬における個別化医療について説明できる。	"
"	"	II	腫瘍外科	小泉 哲	消化器・一般外科	1. 標準手術、拡大手術、縮小手術の意味を説明できる。 2. リンパ節廓清の意義について説明できる。 3. 外科手術を施行する際に考慮すべき患者の状態を列挙できる。	"
"	"	III	がんに対するInterventional Radiology (IVR)	橋本 一樹	放射線医学	1. がんに対するIVR療法（肝動脈塞栓術・動注化学療法など）の長所・短所・合併症を概説できる。 2. 症状緩和を目的としたIVR療法を例示できる。 3. 緊急処置を目的としたIVR療法を例示できる。	"
9.13	金	I	腫瘍随伴症状とオンコロジーエマージェンシー	伊澤 直樹	臨床腫瘍学	1. 腫瘍随伴症状を例示し、症候、診断、治療を概説できる。 2. 代表的なオンコロジーエマージェンシーを例示し、症候、診断、治療を概説できる。	"
"	"	II	チーム医療と緩和医療	伊澤 直樹 平川 麻美	臨床腫瘍学 "	1. がん治療におけるチーム医療を説明できる。 2. がん性疼痛に対する鎮痛薬の種類・投与方法・代表的な副作用とその対策を概説できる。 3. がん終末期患者にみられる身体・精神症状を列挙して病態を概説できる。	"
"	"	III	がん診療における尺度と臨床試験	砂川 優	臨床腫瘍学	1. 生存期間を評価するためのKaplan-Mier曲線を説明できる。 2. 治療の効果と有害事象の評価について説明できる。 3. 臨床試験の概要について説明できる。	"